

2007年4月
(平成19年)

No. 25

Amizade

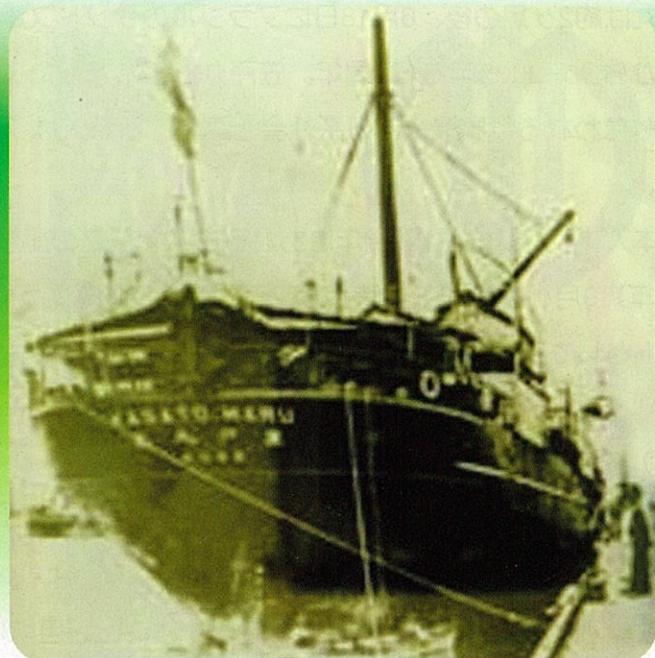
アミザーチ

～姉妹都市協会ニュース～

発行 中津川市姉妹都市友好推進協会
〒508-8501 岐阜県中津川市かやの木町2番1号
中津川市役所 文化スポーツ部生涯学習課
TEL 0573-66-1111 FAX 0573-65-5795
e-mail shogai-e@city.nakatsugawa.lg.jp



「日本ブラジル交流年」公式ロゴマーク



笠戸丸

「日本ブラジル交流年」へ向けて

中津川市と姉妹都市であるレジストロ市には、ブラジルへ渡った日本人やその子孫の皆さんが多い数生活しています。その歴史は古く、初めて日本人がレジストロ市へ入植したのは今から94年前である1913年（大正2年）のことです。

そのさらに5年前である1908年（明治41年）、神戸港から出発する客船「笠戸丸」に乗り込み、ブラジルのサントス港に初めて日本人が降り立ちました。それから100周年を迎える2008年（平成20年）は「日本ブラジル交流年（日伯交流年）」としてブラジルで記念式典が催され、日本からも、皇室をはじめ多くの方々が参加を予定しております。

中津川市からも慶祝団を結成して、レジストロ市の訪問を計画致したいと思います。多くの中津川市民の皆様に参加頂ければと願っております。

【2ページ「『日伯交流年』への動き」も併せてご覧ください】

レジストロ市にある「中津川」

レジストロ市にある「中津川」

レジストロ市章

1980-2007

中津川市章

レジストロ市街

恵那山・中津川市街

中津川市にある「レジストロ」

中津川市にある「レジストロ」

中津川市とレジストロ市が姉妹都市に調印して、四半世紀が過ぎました。その間には、交流事業や災害支援など、お互いに友好を深め、助け合ってきました。そして、今やこの友好は、互いの市の歴史の一部になっています。

ここでは、レジストロ市にある「中津川」と中津川市にある「レジストロ」について紹介します。このページをご覧になった皆さまが、地球の反対側にある街のことを思い浮かべていただければ幸いです。

「日伯交流年」への動き

(1) 「日伯交流年」とは?

1908年4月28日、781名を乗せた日本人ブラジル移住第1回移民船「笠戸丸」が神戸港を出航しました。笠戸丸は約2ヶ月の後、6月18日にブラジルのサントス港に入港。ここに日本人の移住が始まりました。それから来年2008年で100周年。笠戸丸から始まったブラジル移民の子孫は、現在では140万人を擁するとも言われる世界最大の日系社会を築き、日系人はブラジル国内でも高い評価を得るようになっています。

日本人ブラジル移住100周年にあたる2008年。この記念すべき年にあたり、日伯両政府は、2004年（平成16年）9月小泉総理（当時）がブラジルを訪問した際に、2008年を「日本ブラジル交流年（日伯交流年）」として祝うことで合意しました。

(2) 交流年の目的・期間

日本ブラジル交流年では、世界最大の日系社会を有するまでになった日本人のブラジル移住の100周年を祝うことはもちろんですが、これに留まらず、より幅広い両国国民の間で交流事業を行なうことで、未来に向かって日伯両国の結びつきを強めることを目指しています。

このため、経済、社会、文化、芸術、学術、観光、スポーツなど幅広い分野での交流を行う予定です。期間は2008年1月から12月までの1年間です。

(1)、(2) : 外務省ホームページから抜粋

(3) レジストロ市の動き

レジストロ市では、サンパウロ市や近隣都市との共同事業のほかにも、平成15年に中津川市民栄誉章を授与された那須野英男さんを日伯100周年実行委員会長として、準備が始まっています。

その1つに記念モニュメントの製作があります。「日本人移民ゆかりの地」とも言われるレジストロ市には、入植した先人から伝わる農具や農業施設が残されています。特に、現在レジストロ市移民資料館として使用されているKKKK（海外興業株式会社）の施設は、1922年（大正11年）から60余年にわたり、日系人の農産物出荷の業務に使用されてきましたが、現資料館として改修する際に、多くの農業用機械が不要になりました。それらの道具や部品を生かして、ブラジル在住の彫刻家 豊田 豊さんが、ブラジル日本移民100周年を記念したモニュメント作りに取り組かっています。全部で7基にもなるこれらのモニュメントは、豊田さんいわく「この作品は、3世、4世、いや永遠にこのレジストロの地で生き続けていく」というものです。

また、レジストロ市内にある「中津川通り」が、ブラジル日本移民100周年記念事業の一環として、東洋風に再整備されることが発表されました。



Registro
レジストロ市



中津川通り

2005年に命名されました。
レジストロ日伯文化協会会館があります。



レジストロ歴史資料館内 中津川コーナー



最近5年間のあゆみ

◆平成12年10月19日

- ・姉妹都市提携20周年記念式典に出席のためサムエル・モレイラ レジストロ市長ら親善訪問団来津

◆平成14年1月26日

- ・レジストロ市移民資料館落成、館内に「中津川コーナー」を設けて展示

◆平成15年10月21日

- ・中津川市から親善訪問団が訪伯

◆平成17年11月13日

- ・姉妹都市提携25周年記念式典に出席のためクロヴィス・ヴィエイラ・メンデス レジストロ市長夫妻ら親善訪問団来津

Nakatsugawa
中津川市



命名碑と
レジストロ市長(右)



中津川市鉱物博物館には、
レジストロ市から贈られた
125cmの紫水晶の晶洞が展
示されています。



新町通りには、**プラジル**
(レジストロ市)との友好
を象徴したモニュメントが
あります。



レジストロ公園

初めてレジストロ市長が来津した1981年ご
、「友好之碑」が建立されました。

それから四半世紀以上が経ち、その時の
記念植樹は非常に大きくなりましたが、友
好之碑は今も変わらず両市の友好を見守っ
ています。



レジストロ市のデータ	項目	中津川市のデータ
742km ²	市の面積	676.38km ²
約60,000人	市の人口	86,141人
市民のうち、日系人の人口	市民のうち、日系人 (ブラジル人の人口)	市民のうち、ブラジル人の人口
3,182人	3,182人	193人
バナナ栽培、牧畜をはじめとする農業	主な産業	製造業など
1944年11月30日	市制施行年月日	1952年4月1日
中津川市にまつわるところ	お互いの市に まつわるところ	レジストロ市にまつわるところ
・中津川公園 ・中津川通り ・レジストロ歴史資料 館内中津川コーナー	・レジストロ通り ・レジストロ公園	

レジストロ市ホームページ
<http://www регистра. sp. gov. br/>
(※ポルトガル語です)

中津川市ホームページ
<http://www. city. nakatsugawa. gifu. jp/>

岐伯青年親善交流訪問団 来津

ブラジルから岐阜県を訪問していた「岐伯青年親善交流訪問団」が、8月10日から11日にかけて、中津川市を訪れました。

「岐伯青年親善交流訪問団」は岐阜県人ブラジル移住60周年を契機として昭和48年度から始まり、各地の視察研修、青年同士の交流等を通じて、国際的視野の拡大や国際協力精神をはぐくむことを目的としており、今年度で34回を数えます。訪問団は、サンパウロ州在住の檀貴行さん、芳賀英則エドアルドさん、宮本加代ミリアンさん、石川仁ジョニーさんの4名です。

一行は中津川市役所で大山市長を表敬訪問され、日本とブラジルのさらなる友好を願ってドウダンツツジを記念植樹しました。その後、馬籠宿の藤村記念館や苗木遠山史料館を見学され、中津川市の歴史や日本の文化に触れられました。

夜は、ふれあい牧場で交歓会を行い、「中津川インターナショナルワークショップ」や「ブラジルに親しむ会」の方々、そして国際交流に興味を持つ市民の方々と交流を深められました。



協会長、市長、正副議長とともに



ドウダンツツジを記念植樹しました



馬籠地区を散策



「大きな栗の木の下で」を振りつきで披露されました

レジストロ市民の生活

金子国栄
(レジストロ市在住)

国道116号線を通して南米第1の大都市サンパウロとパラナ州の州都クリチーバのほぼ中央に位置するレジストロには約60,000人が住んでいる。海拔14メートルのこの町には河川約300メートルのリオ・リベイラ・デ・イグアッペ(リベイラ河)が流れ太平洋に注いでいる。市民もこの流れの様に穏やかに、そして明るく日々を送っている。地震の無い、雪も降らない国だからかも知れない。

レジストロの主な産業はバナナ栽培で、続いて水牛を中心とした牧畜、紅茶製造、花卉栽培、稻作、野菜、ゴザ、畳製造等。大きな工場は殆ど無い。レジストロは14の市町村からなるヴァーレ・ド・リベイラ(リベイラ河地域)の中心的存在で商業も盛んである。近隣の市町村から大勢の買い物客で賑わう。

レジストロには48の市立校(幼稚園、小学校)、14の州立校(中学校、高校)、12の私立学校(小学校から高校まで)がありその生徒の総数は16,000人を超える。又州立大学には268人の学生が、私立大学には2,664人の学生が在席している。大学には他の地方から来ている学生も大勢いて、町に活気を与えている。その反面、レジストロ生まれの青少年が高校卒業と同時に日本へ働きに行ったり、大都会の大学で学び卒業後は、この町では就職の場が無く、大都市に住み働くケースが多い。この町には州立外国語センターがあり約400人がスペイン語を80人が日本語を勉強しているがその60/パーセントは非日系人である。又、レジストロ日伯文化協会の日本語学校には約80人の生徒がいる。レジストロには2つの病院があり、他に多くの診療所もあるが、近くの市町村からも患者が来るので十分な応対が出来ない事もある。日本と比べ幼児の死亡率が高いため平均寿命も66歳と低い。

1913年最初の日本人がこの地に移住して以来、日系人がこの地方の発展に尽くして来たことは言うまでも無い。1998年の実態調査では3,182人の日系人が住んでおり、これは全市民の5.3/パーセントに過ぎない。しかし約800人程日本に働きに行っていると思われる日系人の数を考慮すると、6.6/パーセントとなる。この数字より日系人が多く感じられるのは、多くの日系人が市内の中心街で商業を営んでいるのと、レジストロ日伯文化協会とベース・ボールクラブの存在が上げられる。この2団体は日系人中心で活動しているが市役所と共に多くの年中行事を行っている。その主なものは「寿司祭り」、「盆踊り」、「灯篭流し」で大勢の非日系人も参加する。ここに非日系人は日本食も好んで食べるし、盆踊りも大好き。

毎週火、木、日曜日に青空市が開かれ、地元で生産された野菜、70キロ離れたカナネイア、イグアッペで獲れた鮮魚が売られ大変な賑わいだ。1週間分の買い物をする人もいる。

日本での就労者の送金がこの町の経済を活性化させている事も見逃せない。

金子国栄

1940年11月23日新潟県(旧)川西町大字岩瀬(現在の十日町市)に生まれる。1959年3月新潟県立加茂農林高等学校を卒業後、同年8月ブラジルに単身、18歳で移住し、レジストロ市の紅茶工場に就職。ブラジルで小、中、普通高校、商業高校を卒業し、公認会計士となる。2001年、42年間勤務した紅茶工場を定年退職し、日本語教室を開く。その後、ボランティア活動を続ける。地元の週刊新聞にレジストロや近隣の市町村の「日系社会ニュース」を毎週、日本語とポルトガル語を1ページ書いて5年になる。又、サンパウロの邦字新聞にも地方のニュースを送っている。ラジオ体操会を創立し12年間、妻と共に指導員として活動している。2002年10月、ブラジルに和太鼓が導入されて以来、妻と共に青少年の世話をしている。1993年のレジストロ日伯文化協会創立以来理事を務めている。趣味はカラオケ、野球、水泳。2005年11月に妻の慶子と共に「レジストロ名誉市民章」を受ける。



姉妹都市提携25周年記念誌「オブリガード」

中津川市姉妹都市友好推進協会では、姉妹都市提携25周年記念誌「オブリガード」を発行しました。こちらでは、レジストロ市と中津川市が姉妹都市を提携した経緯や、姉妹都市としての活動の歴史などを紹介しています。

当協会会員へ配布しているほか、市立中央図書館、蛭川済美図書館や、市役所市民情報サロンにもございます。ぜひ、ご覧ください。



【中津川市姉妹都市友好推進協会】 ご入会のお願い

中津川市姉妹都市友好推進協会では、平成19年度の会員を募集しています。会費は次のとおりです。

個人 1□ 1,000円

団体 1□ 5,000円

法人 1□ 10,000円

申込用紙は市内金融機関、中津川商工会議所、市役所案内、各コミュニティセンター、各総合事務所にございます。

多くの皆さんにご入会いただきますよう、よろしくお願いします。

問い合わせ先

中津川市姉妹都市友好推進協会（市役所生涯学習課内）

電話（0573）66-1111（内線679）

【ブラジルに親しむ会】

市内サークル「ブラジルに親しむ会」では、姉妹都市レジストロ市のあるブラジルについて知識を深めています。興味のある方、公用語であるポルトガル語を学びたい方は、気軽にご参加ください。

問い合わせ先

ブラジルに親しむ会 小川 琴子

電話（0573）67-2973



レジストロ市にある鳥居